生命のにぎわい調査団生命のにぎわい通信

発行: 千葉県環境生活部自然保護課 千葉県生物多様性センター 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内) TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615 URL http://www.bdcchiba.jp/monitor/ E-mail monitor@bdcchiba.jp

第 58 号: 発行 令和 3 年 (2021 年) 5 月

春はカメ探しの季節!

ぽかぽか陽気の春は、カメ探しにはうってつけの季節です。カメ類は太陽光を浴びて体温を調節するため、冬眠明けのこの時期には川岸や流木の上で多くの個体が日光浴を行う姿が観察できます。今号では、千葉県の淡水域で観察できるカメ類の中から5種を紹介します。種数が多いとはいえ、確実な在来種はニホンイシガメのみです。各写真の右下は撮影者の団員番号、種名の横の記号は千葉県レッドリストのランクです。



ニホンイシガメ (A)

平地から丘陵地にかけた広範囲に生息していましたが、様々な要因により各地から消えてしまいました。現在、主に房総丘陵にある河川の上・中流部で見られます。背甲の後縁部のギザギザが特徴です。



クサガメ

中国や韓国を原産とする外来種説が有力。主に平地の水田、水路や河川の中下流部で見られます。顔の黄色い模様や背甲にある3本の隆起線が特徴です。捕まえると特有の臭いを発します。



クサガメ (黒化個体)

成熟したオスは全身が真っ黒になります。 ニホンイシガメと誤同定されることが多いので、3本の隆起線や臭いを確認する のがポイントです。なお、何の意味があって、黒化するのかは分かっていません。



ミシシッピアカミミガメ

北アメリカ原産。県内では中央部から北部の河川中・下流部や池沼を中心に生息し、川岸、流木やテトラポッドの上で日光浴をする姿が観察できます。かまれると痛いので顔の前に手を出さないように。



ミシシッピアカミミガメ (幼体)

幼体は綺麗な緑色をしているため、通称"ミドリガメ"と呼ばれています。 この時期は比較的大人しいですが、成長するにつれ、より頻繁にかみついて くるようになります。



ミシシッピアカミミガメ(黒化個体)

大きく成長したオスの成熟個体の一部 は黒化することが知られています。特 に背甲の色が特徴的で、ニホンイシガ メのように黄色っぽくなるものから、 暗い灰色になるものもいます。

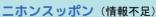




カミツキガメ

北アメリカ原産の特定外来生物。千葉県では印旛沼流域を中心に定着していますが、県の防除対策により減少中です。かまれると危険なので、顔の前や背甲の前中部には手を出さないようにしてください。右図の孵化幼体の時期は比較的大人しいですが、成長した個体の多くは長い首を素早く伸ばしてかみついてきます。陸地に上がって日光浴を行うことは稀です。







ニホンスッポンと呼ばれるカメの中には、在来種と外来種の2種が含まれると言われています。県内に生息するスッポンは在来種か外来種かの判断がついておらず、県レッドリストでは情報不足となっています。そもそも、確認地点が非常に少なく、生息状況もよく分かっていません。もし、県内でスッポンを発見した際には、是非ともご報告をお願いします。なお、かみつくので触る際にはご注意を!

最新の生物多様性に関する情報、各種研修会の情報 は、当センターと調査団のホームページをご覧ください

古典文学と里山の生き物たちの世界

第十二回 トラツグミ

Zoothera dauma スズメ目ヒタキ科

大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのよう に生き物とかかわり、その姿に何を見ていたのでしょう。この連載では、生物多様性センターに勤務 している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、生命のにぎわい調査団の皆様を過 去の世界にご案内します。

日本産のツグミ類の中で最も大きなトラツグミは、千葉県のレッドリストでは「A・最重要保護生物」 にランクされています。姿も立派で、バードウォッチャーに人気の鳥です。ところがこの鳥は、夜に 「ヒィー、ヒィー」と聴こえる笛のような声で鳴くため、古来から気味悪がられてもきました。これ が平安時代には「鵺」という妖怪の鳴き声とされたのは有名です。

この鵺は、たまに姿を現しては誰かに退治されています。最も有名なのは、仁平年間(1151年~ 1154年)、源頼政が退治したものでしょう。この頃、夜な夜な御所の上に黒雲とともに不気味な鳴き声 が響くようになり、時の近衛天皇が怯えられたので、弓馬の達人・頼政が召し出され、見事に怪物を射 止めた、という話です。

ところがこの怪物、『平家物語』によると、鳴き声こそ鵺なものの、頭はサル、胴体はタヌキ、手足はトラ、 尻尾はヘビに似ていたというのですから、ぜんぜんトラッグミではありません。その描写に真実がある とするなら、むしろ中型の哺乳類のようです。

実は、この怪物は本当に、当時の日本人には未知の中型哺 乳類であった可能性があります。東アジア海域では、香料や 薬となる「麝香」をとるためにジャコウネコの仲間が国際的 に流通していたからです。鎌倉時代初期、藤原定家の日記『明 月記』にも、輸入されたジャコウネコを見たことが記されて います。前述の怪物の描写は、現生のジャコウネコの仲間、 とりわけハクビシンを思い起こさせるものがあります。どこ かから逃げたジャコウネコ、もしかしたらハクビシンが御所



作 石田 理紗

の屋根裏あたりに住みついて物音を立てていたのだとすると、辻褄が合ってしまいます。源頼政の鵺退 治は、日本最古の外来生物駆除の記録だったのかもしれません。

頼政は、約30年後、再び武士として歴史の表舞台に登場します。齢77歳にして平家打倒の兵をあげ、 宇治川で戦死したのです。それは頼朝や義仲の蜂起、そして平家滅亡へとつながる戦乱の始まりでした。

くこれからの季節に観察できる生きもの>

- ○調査対象種: ヒガシニホントカゲ、カワセミ、キジ、 サワガニ、キンランなど
- ○調査対象種以外
- * 渡りのヒタキ類、サシバなどの猛禽類
- * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
- *希少生物 (生息地・生息数が減少している生物)、 外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の同定が難しいため、できる だけ写真の添付をお願いします。

「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内 九十九里浜で生き物や景観を観察しよう!

九十九里浜有数のハマヒルガオ群落地・白子町剃金海岸で、海辺に生息 する動植物、地形や景観、蜃気楼などの大気光学現象を学び、九十九里浜 の魅力を研修します。

- ●開催日(どちらか一日、お好きな日を選んでください)(荒天中止)
 - ①令和3年5月19日(水) 午前9時~正午(予定)
 - ②令和3年5月23日(日) 午前9時~正午(予定)
- ●定員:5月19日(水)は20名、5月23日(日)は40名(申 込多数の場合は抽選)。小学生以下が参加する場合は保護者同伴。
- ●申込締切:令和3年5月10日(月)必着(郵送またはFAX)
- ●詳細は申込案内書をご覧ください。